

INFLUX

いすみ洋上
風力発電

環境配慮書を縦覧

最大出力は696メガワット

INFLUX OFFSHORE WIND POWER HD(東京都港区)が設立

を設ける。総出力が696メガワットを上回らないように出力調整する。

した「株式会社いすみ洋上風力発電」(同区、小出章代表取締役)は30日、環境影響評価法に基づき「(仮称)いすみ沖洋上風力発電事業」の計画段階環境配慮書の縦覧を開始した。着床式の風力発電機を想定しており、総出力は最大696メガワットとなる。千葉県いすみ市沖の洋上風力発電事業の配慮書縦覧は5社目となる。

ローター直径は164メートルから310メートル。平均海面から8メートルまでの高さは105メートルから180メートル、同海面からの最大高さは190メートルから335メートルとなる。基礎構造はモノパイラル式、ジャケット式、重力式を想定しており、今後実施するボーリング調査の結果を踏まえて選定する。

風力発電機は、1基当たりの定格出力が9・5メガワットの場合に最大74基、12メガワットの場合は58基、20メガワットの場合は35基

変電設備の位置、海底ケーブルの配置や陸揚げ地点の位置、系統連系地点とそこまでの送電線のルート、敷設方法などは検討中となっている。

基礎や風車組立・設置、電気
の工期は3年程度を見込む。
事業実施想定区域は、いす
み市沖の離岸距離3キロ以上

約290平方メートル。海底ケーブル設置想定区域は同3キロ以内の約50平方メートル。配慮書の策定は東京パワーテクノロジーズ(東京都江東区)が担当した。
いすみ市沖の洋上風力の配慮書縦覧は、レノバ(同中央区)、グリーンパワーインベストメント(同港区)、千葉洋上風力(同)、合同会社いすみ洋上風力(同)も実施した。